

3・4年生 国語科学習指導案

日時：2019年11月22日

児童：富磯小学校 3年 男子1名 女子2名
4年 男子2名 女子1名

指導者：〇〇 〇〇

1. 単元名・教材名

3年 物語のおもしろいところをしょうかいしよう

モチモチの木／「おすすめ図書カード」を活用しよう

4年 テーマを決めて、本を紹介しよう

ごんぎつね／「読書発表会」をしよう

2. 単元について

4年

テーマを決めて、本をしょうかいしよう
ごんぎつね／「読書発表会」をしよう

児童文学の名作「ごんぎつね」。登場人物の気持ちや行動を表す言葉に目を向けながら、物語の世界にたっぷりと浸り、感想を深めていくことがねらいとされている。また、情景描写を登場人物の気持ちに重ねて読み取ることができるといことも押さえたい。叙述を基に、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などの想像したことを他者と交流することによって、互いの感じ方の違いに気づかせる学習展開を組んでいきたい。

教材文の学習を終えた後は、「読書発表会」を行うことを単元の始めに伝えておく。昼読書の時間を活用し、テーマを決めた本を選んで並行読書をしていく。友達に興味をもってもらえるような紹介の仕方を工夫するとともに、友達の紹介を聞いて様々なジャンルの本に興味をもたせたい。

3年

物語のおもしろいところを紹介しよう
モチモチの木／「おすすめ図書カード」
を活用しよう

本単元は、人物の気持ちや場面が移り変わる面白さを読み、読書の世界を豊かにすることを目的とした単元である。

『モチモチの木』は、登場人物である「豆太」の言動がわかりやすく書かれている。

「豆太」の姿や行動に共感しながら読むことで、気持ちの移り変わりをより深く捉えさせていきたい。

また自分自身や友達の読書の世界を広げていくことをねらいとし、「おすすめ図書カード」を作り、紹介する活動を行う。昼読書の時間を活用し、「おすすめ図書カード」に書きたいと思える本を並行読書していく。他学年の友達に読んでもらう目的意識をもつことで、積極的に読書に向かう気持ちをもたせたい。

【学習指導要領との関連】

◎C 読むこと

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を読むこと。⇒言語活動

C(2)ア 物語を読み感想を述べ合うこと

C(2)エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。

【学習指導要領との関連】

◎C 読むこと

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を読むこと。⇒言語活動

C(2)ア 物語を読み感想を述べ合うこと

C(2)エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。

単元の目標と評価基準

【目標】

4年生・3年生

【読】 人物の気持ちや場面が移り変わる面白さを読み、読書の世界を豊かにする。

(1) 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

【評価規準】

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
4 年 生	登場人物の移り変わって いく行動や気持ちを想像 しながら読み、意見を交 流する中で互いの感じ方 の違いに気づく。	場面の移り変わりに注意して文章の中心と なる大事な事柄に着目して読んでいる。 色々な本を読み、なぜその本を紹介したい のかを明確にし、紹介方法を工夫したり、 理由や事例を挙げたりして書いている。	性格や人物を表す言 葉に気づいている。
3 年 生	豆太とじさまの様子や気 持ちの変化を想像しなが ら、物語のおもしろいと ころを捉えようとしてい る。	豆太やじさまの様子や気持ちが表れている 言葉に着目し、場面と場面とを関連させな がら気持ちを想像している。 「おすすめ」するために、物語のおもしろ いところをつかみ、本の良さや楽しさなど、 紹介したいことの中心を明確にし、わかり やすい理由や事例を挙げて書いている。	人柄や人物を表す言 葉が、文中で使われて いることに気づいて いる。

3. 児童の実態

〈省略〉

⇒指導の手立て

- ・事前の学習準備をさせる～家庭学習の中で読む練習をしたり、意味調べをしたりするなどの事前の学習をする。
- ・読みを助ける視覚的な手がかりを用意する～イメージが膨らむように挿絵を提示する。調べた言葉の意味を掲示する。
- ・読書に親しむ環境を整える～教室に絵本などを置き、紹介したり、読み聞かせをしたりする。
昼読書で、並行読書に取り組む。(同じ作者の作品・似た題材やテーマの本など)
- ・グループ学習をすることで、自分の考えをもったり、他の人の考えと比べたりできるようになる。

【座席表】

〈省略〉

4. 研究主題との関わり

〈研究主題〉

生き生き学び、自分の良さを発揮できる子どもの育成

～授業のユニバーサルデザインを通して全員が楽しく「わかる・できる」授業づくり～
2/3年次 国語科に焦点化して

〈研究仮説〉



- 1) 子どもの実態・変容を適宜・正確につかみ、子どもの学びに寄り添うことで、効果的な授業のUD化が図れ、児童は、主体的・対話的な深い学び（子どもが夢中で考えたり、粘り強く解決したり）ができるであろう
- 2) 読書活動の工夫を通し、読みに対する抵抗感を減らしたり、楽しさを味わわせたりすることで、伝える力・関連づける力・広げる力がつくであろう

〈研究内容〉



国語科における実態の把握・変容をつかみ、子どもと共有

国語科における子どもの学びによりそう授業づくり

〈つきたい力〉

・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像する力		
	【4年】	【3年】
技能	気持ちの移り変わりがわかるような会話や行動、情景描写を見つけることができる。	気持ちの移り変わりがわかるような会話や行動を見つけることができる。
思考力	登場人物の行動や会話、情景描写に着目し、気持ちの変化や行動の理由を想像することができる。	登場人物の行動や会話に着目し、気持ちの変化や行動の理由を想像豊かに読むことができる。
学びに向かう力	自分の考えをもち、考えを伝え合って協力して学ぼうとする態度。	

6. 指導計画（4年生14時間、3年生14時間）

4年			3年		
	学習内容	評価規準	学習内容	評価規準	
1	単元のとびらを読んで、学習の見通しをもつ。 「ごんぎつね」の全文を読み、強く心に残った場面と理由を書く。	【関】興味をもって作品を読み、学習の見通しをもっている。	単元のとびらを読んで学習計画について話し合い、「おすすめ図書カード」紹介に向けた見通しをもつ。 全文を読みあらすじをつかむ。 初発の感想を伝え合う。	【関】豆太の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み、それを表現している。	1
2	1の場面を読んで、ごんの行動や気持ちから、ごん	【関】意見を述べ合い、自分の考えとの類似点や相違点に気づく。	1の場面を読み、豆太とじさまの様子や性格を読み取る。	【関】場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。	2

	の性格を話し合う。	【読】 ごんの行動や気持ちからごんの性格を読み取っている。		【読】 会話や行動を通して、豆太の気持ちの移り変わりを考えている。	
3	2の場面を読んで、ごんの気持ちが見える表現を書き出し、気持ちの移り変わりを考え、話し合う。	【関】 場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】 ごんの気持ちや行動を表す表現に気がつけながら読み取っている。	2の場面を読み、会話や行動に注意して、登場人物の気持ちの変化を想像する。	【関】 場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】 会話や行動を通して、豆太の気持ちの移り変わりを考えている。	3
4	3の場面を読んで、ごんの気持ちが見える表現を書き出し、気持ちの移り変わりを考え、話し合う。	【関】 場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】 ごんの気持ちや行動を表す表現に気がつけながら読み取っている。	3の場面を読み、会話や行動に注意して、登場人物の気持ちの変化を想像する。	【関】 場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】 会話や行動を通して、豆太の気持ちの移り変わりを考えている。	4
5	4・5の場面を読んで、ごんの気持ちが見える表現を書き出し、気持ちの移り変わりを考え、話し合う。	【関】 場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】 ごんの気持ちや行動を表す表現に気がつけながら読み取っている。	4の場面を読み、会話や行動に注意して、登場人物の気持ちの変化を想像する。	【関】 場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】 会話や行動を通して、豆太の気持ちの移り変わりを考えている。	5
6	本時 6の場面を読んで、ごんとひょうじゅうの行動から気持ちの移り変わりを考え、話し合う。	【関】 場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】 ごんの気持ちや行動を表す表現に気がつけながら読み取っている。	5の場面を読み、会話や行動に注意して、登場人物の気持ちの変化を想像する。	【関】 場面の様子を想像し、進んで読もうとしている。 【読】 会話や行動を通して、豆太の気持ちの移り変わりを考えている。	6
7	物語がどのようなお話なのかの副題を考え、紹介し合う。	【関】 物語全体を振り返ってお話の良さがよく伝わる副題を考えている。 【読】 場面を表すのに適切な言葉を使って、短い文にまとめている。	豆太の気持ちが見える声の出し方を考えて音読する。	【読】 豆太のどのような気持ち表現したいか聞き手に伝え、工夫して音読している。	7
8	考えた副題とその理由を発表し合う。	【関】 心に強く残った場面や好きな場面を通して、物語の良さが伝わるように発表している。	会話や行動に注意して、豆太やじさまの気持ちの変化を想像し、物語のおもしろいところを紹介	【書】 物語のおもしろいところを紹介する文章を、根拠を明確にして書いている。	8 本時

9	紹介したい本を選び、「読書発表会」の準備をする。	【関】紹介したい本を数冊選び、すすんで「読書発表会」をしようとしている。	介する。		9
10		【関】紹介の方法を進んで考えている。 【読】テーマに沿った本を読んでいる。	自ら作品を選び、自分で課題を決めて「おすすめ図書カード」紹介に向けた見通しをもつ。	【関】「おすすめ図書カード」をもとに、興味をもった本を進んで読もうとしている。	10
11			自分で選んだ本を読み、書こうとする	【書】「おすすめ」の本を紹介する文章を、相手や目的を明確にして書いている。	11
12		【関】紹介の方法に合わせて、進んで練習している。	ことの中心を明確にして「おすすめ図書カード」を書く。		12
13	「読書発表会」をする。	【関】紹介したい本を数冊選び、進んで「読書発表会」をしている。			13
14	発表の感想交流を行い、紹介された本を読んでみる。	【言】本の紹介を自分の感想や、本のあらすじなどを表す語句を使って表現している。	「おすすめ図書カード」をもとに、興味をもった本を進んで読む。	【関】「おすすめ図書カード」をもとに、興味をもった本を進んで読もうとしている。	14

7. 本時

【本時の目標】

4年	3年
【読】ごんの気持ちや行動を表す表現に気をつけながら文を読み取る。	【読】会話や行動に注意して、豆太やじさまの気持ちの変化を想像し、物語のおもしろいところを紹介する。

【評価規準】

4年	3年
【関】ごんと兵十の気持ちが表示されている言葉を探し、それぞれの気持ちを進んで書いたり、発表したりすることができる。 【読】ごんと兵十の台詞や行動を基に、それぞれの気持ちの変化を読み取ることができている。	【関】豆太の様子や気持ちの変化を想像しながら、物語のおもしろいところを紹介しようとしている。 【書】物語のおもしろいところを紹介する文章を、根拠を明確にして書いている。

【本時の展開】

児童の活動(4年生) 6/14時		教師の指示・支援(◎4年 ○3年、評4…4年、評3…3年)	児童の活動(3年生)8/14時	
と ら え る 8 分	①はじめのあいさつ ②本時の場面を読む。 ③めあてを書き、本時のめあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">課じゅうでうった兵十と、うたれたごんの気持ちを考えよう。</div>	◎4年生に指示 ◎本時のめあてを確認する。 ○本時のめあてを確認する。	①はじめのあいさつ ②本時のめあてをノートに書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">め「モチモチの木」のおもしろいところをしょうかいするじゅんびをしよう。</div> ③本時のめあての確認	と ら え る 5 分
み つ け る 1 0 分	④ごんと兵十の気持ちがわかる言葉「キーワード」にサイドラインを引き、教科書に書き込みをする。	○活動を指示。 評4: キーワードを探し、それに対する登場人物の気持ちが書けている(観察) 評3: 自分の考えをノートに表すことができている。(ノート・観察)	④会話や行動から、豆太の性格を考える。 ⑤豆太は、物語の始まりと終わりでは、変わったのか、変わっていないのか、またその理由を考える。	み つ け る 1 3 分
つ た え る 1 5 分	⑤発表し合う 1つの意見にまとめるのではなく、それぞれの考えを尊重する。	◎会話や行動以外の、情景描写からも登場人物の気持ちが読み取れることに気づかせる。	⑥3人で自分の考えを伝え合う。 ・交流が終わって、時間があれば、新出漢字練習をする。	つ た え る 1 9 分
ま と め る 7 分	⑥ごんと兵十の気持ちの変化について話し合い、まとめる。 ◆じゅうでうつ前の兵十とうった後の兵十の気持ちは、どう変化したでしょう。 ◆うたれたごんは、どんな気持ちで最後にうなずいたのでしょうか。 ⑦まとめの交流 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">兵十 にくい、じゅうでうってやろう。殺してやろう→やってしまった！ なんてことをしてしまったんだ！ ごん 最後にわかってくれてうれしい。</div>			ま と め る
5 分	⑧本時の場面に題名をつける。		⑦交流の様子を聞き、まとめる。	8 分

【板書計画】

4年

<p>④ じゅうでうった兵十と うたれたごんの気持ちを考えよう。</p>	<p>兵十 「ようし。」</p> <p>またいたずらしにきやがったな。じゅうでやつつけてやろう。ドンど、うちました。よし、あたったぞ！</p> <p>「おや。」</p> <p>あれ、くりが置いてあるもしかして、ごんが今まくりりや松たけを持ってたのか？</p> <p>火なわじゅうをばたりと、取り落としました。うたなければよかった。ごめんよ、ごん。</p> <hr/> <p>ごん こっそり中へ</p> <p>兵十に見つからないようにしなきゃ</p> <p>ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。</p> <p>やっと気がついてくれたか。良かった。</p> <p>いつも悪さをしてばかりでごめんね</p>
<p>③ 兵十</p> <p>うつ前（</p> <p>うつた後（</p> <p>ごん</p> <p>最後にわかってくれてうれしい</p>	

3年

<p>④ 「モチモチの木」のおもしろいところをしょうかいするじゅんびきじょう。</p>	<p>○豆太のせいかがわかる、会話や行動</p>	<p>会話</p> <p>「じさまめ。」</p> <p>「・・・それじゃあ、おらは、とつてもだめだ・・・。」</p> <p>行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じさまについてってもらわないと、一人じゃしようべんもできないのだ。 ・いばってさいそくしたりする ・夜になると、まめ太は、もうだめなんだ。 ・ちっちゃい声で、なきそうに言った。 ・ぶるぶるだ。
<p>豆太は、おくびよう、泣き虫、弱虫</p>	<p>○豆太は、（かわった・かわってない）と思います。理由は、</p>	